

小学校 6年

よりよい学年、よりよい学校に向けて

摂津市立別府小学校

教科

特別活動

単元名

よりよい学校にしよう

本時のねらい

学校生活をよりよくするため、iPad を活用して話し合い、協力して課題を分析しまとめる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

学習ソフト（ロイロノート）にまとめる作業を通して、友だちの意見を参考に自分の考えを整理させることをねらった。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・AppleTV ・電子黒板 ・学習ソフト（ロイロノート） ・Google ドライブ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題をつかむ。 「いまの6年生としての集団を振り返り、素敵などころ、困っていることを分析してまとめよう」 ○授業の流れを確認し、見通しをもつ。(写真1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板につないだ AppleTV と iPad のミラーリング機能を使い、iPad の画面を提示して確認する。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノートのシンキングツール（座標軸）を活用し、 【個人の内容】【全体の内容】 【嬉しいこと】【困っていること】 を個人で具体的に考える。 例 ・「私は忘れ物が多くて、授業中に困ることが多い」 ・「時間を守れているけれど、授業のはじめが静かにならなくて困っている」 ・「廊下を走ったり、列を整えたりするのが6年生全体で多く、下級生の見本になれていない」 ○個人で考えたものをもとに、これから取り組みたいことについて班で交流し、まとめる。(写真2) ・「ルールのことについて書いている人が多い」 ・「学年で集まるとできなくなる気がする」 ・「目標はもっとわかりやすくしよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に考えられるように、電子黒板を使って実際の教員の経験をもとにしたモデルを示す。 ・タイマーで時間を区切って、細めに提出させることで、最新の考えをクラス全体で共有することができる。なかなか考えが浮かばない児童には、共有された他の友だちの考えを参考に考えさせる。 ・わくわく問題を実際に電子黒板で見せて、班で考える内容の見通しがもてるように例を示す。 ・ロイロノートの提出箱に提出することで共有した成果物を参考に話したり、聞いたりする活動も取り入れる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○次の時間の見通しをもつ。(写真3) 「それぞれの班でまとめたものを比較しよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板につないだ AppleTV と iPad のミラーリング機能を使い、わくわく問題を提示して確認する。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1：モデルを示している場面



写真2：個人での活動の後グループで交流している場面



写真3：グループの意見を一覧にして提示している場面

児童生徒の反応や変容

自分のクラスのことを自分事として振り返ることが求められるので、遠足などの行事から日々の学校生活まで、時間をかけて考えさせた。その結果、できていないことを責めるのではなく、どうすればこれから良くなるのかを考える児童が増えた。また、何を書けばいいのかわからない児童も、他の児童が書いていることを参考にでき、積極的、主体的に、活動している様子が見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

これからの自分たちの生活をよりよくするための時間として、全ての児童が真剣に取り組めた。自分の思いを話して伝えることが苦手な児童も、書いたものを共有することで他の児童から理解され、集団作りの観点から見ても効果的だった。また、国語の話す聞く力や社会の資料を読み取る力、理科や算数の物事を順序だてて整理する力など、教科を横断した活動ができた。